

# St. Luke's International University Repository

## Survey on Learning Needs of Transfer Students at the College of Nursing.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河野, 祐子, 片桐, 麻州美, 小山, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/271">http://hdl.handle.net/10285/271</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 看護大学編入学生の 学習ニードに関する実態調査

河野祐子\*, 片桐麻州美\*\*, 小山眞理子\*\*\*

### 要旨

看護大学編入学生は看護短期大学卒業後、臨床経験等を通じて多様な学習ニードを持ち、これが編入学志望動機に至ることが多い。しかし編入学課程で、個々の編入学生の学習ニードがどれ位充足されているかに関する先行研究は少ない。本調査では、編入学生の学習ニードの内容を明らかにし、その学習ニードが充足されたか否か、またその理由は何故か、を明らかにする目的で調査を行った。

1978年～1990年迄の聖路加看護大学編入学卒業生全123名を対象に質問紙を1990年10月中旬に郵送し、11月下旬迄に回収し、有効回収率は68.7%であった。

学習ニードの高かった分野は、一般教育分野では「社会科学系」の内容に約80%，外国语では「英語」に約55%であり、そのニードは「カリキュラムから選択できた」という理由から充足されていた。専門教育分野では「看護研究」「看護過程」「看護理論」「看護教育」各々に約60%以上の学習ニードがあった。「看護研究」「看護過程」をニードとして選んだ者の約80%は充足されており、その理由は「整えられた学習環境」で、図書館の利用等で自主的に深めたものと思われた。一方、「看護理論」「看護教育」をニードとして選んだ者のうち半数以上は充足されておらず、その理由は「講義時間数の不足」「不十分な学習内容」であった。これは編入学生の持つ自己の学習ニードの内容と大学で提供されている教育内容とは一致していなかったことが示唆された。

### キーワーズ

看護大学 編入学生 学習ニード 学習ニードの充足

### I はじめに

近年、看護婦の高学歴化に伴い、全国において看護系大学の増設または看護系短期大学(以下、看護短大)の増設や昇格が進められてきている。さらにこれと平行して最近、看護大学への編入学志望者が年々増加する傾向にある。しかし、現在日本において看護短大的学生を対象とした看護系大学への編入学を実施している大学は、千葉大学・東京医科歯科大学・東京大学・聖路加看護大学の4校のみであり、看護短大(2・3

年課程)卒業生4,619人(1992年)に対し、編入学生はわずか50~60人(1.1~1.3%)と編入学の門戸は狭い。

編入学制度設立の背景には、高橋ら<sup>1)</sup>が述べているように看護教員不足の改善と看護婦の高度な知識や技術、豊かな人間性が要求されるような社会の変化への対応があった。

聖路加看護大学では、学校案内に述べられているように「看護学を短期大学で修了した人々に継続学習の機会を提供する」<sup>2)</sup>ために、1976年に編入学が導入され、今年で18年目を迎える。編入学生の在学期間は3年次より入学して2年間であり、1993年3月までに163名の卒業生を送りだした。

過去に行われた編入学生に関する実態調査<sup>3) 4) 5) 6) 7)</sup>によると、編入学の志望動機や背景は実に様々である

\* 東京大学大学院医学系研究科修士課程

\*\* 都倉病院

\*\*\* 聖路加看護大学助教授(看護教育学)

と報告されている。また編入学生の特徴として過去に一通りの専門教育を受けていることからも、高校卒業後、直接大学に入学した学生とは学習ニードやその充足が異なると考えられる。編入学生は2年間という短い期間の中で個々の学習ニードを充足させる学習をすることが大切になる、と同時に大学の卒業要件に見合った単位を修得しなければならない。

本調査では、2年間という限られた期間に多様な編入学生の学習ニードを少しでも充足させるような学習が進められるための示唆を得たいと考え、編入学生の学習について調査を行ったのでここに報告する。

## II 調査目的

聖路加看護大学編入学課程の学生の学習ニードについて、以下の五つの視点から明らかにする。

1. 編入学生の編入学時の志望動機を明らかにする。
2. 編入学生の在学中の学習ニードの内容を明らかにする。
3. 編入学生の編入学課程在学中の学習ニードの内容と個々の背景（臨床・教育経験の有無）との関連性を明らかにする。
4. 編入学生の学習ニードが充足されたか否か、またその理由を明らかにする。
5. 編入学生の単位認定に関する認識を明らかにする。

## III 用語の定義

### 1. 聖路加看護大学編入学生

看護学を短期大学で修得し、聖路加看護大学編入学課程に2年間以上在籍した学生。

### 2. 学習ニード

学生の過去の看護体験からさらに新しい技能や知識を意識的・主体的に習得しようとする要求のことを指し、内容的には大学生活全般にわたるものではなく、本調査ではあくまでも講義を中心としたものをいう。

## IV 編入学に関する文献検討

高橋<sup>3)</sup>・大賀ら<sup>4)5)</sup>の先行研究において編入学生、即ち千葉大学・聖路加看護大学編入学卒業生を対象に1987年にアンケート調査が実施された。これにより学生の背景（年齢・結婚・子供の有無・職業・学歴・既に取得している免許・臨床経験の有無等）・編入学志望動機・編入学情報入手方法・編入学体験の評価・卒業後の動向が明確にされた。

前述の先行研究によると編入学生の背景については

多様であったが、学生は看護短大を卒業後、社会に出ることを数年先に延ばしたり、社会人から再び学生という生活の切り替え等、新しい役割の負担を覚悟してまで大学教育を受けることを望んでいた。編入学の志望動機については、「看護をさらに学びたい」「看護短大の学習だけでは不十分」「学歴取得」等の回答が多かったが、「学歴取得」のみを目的とした者はいなかった。つまり編入学に至った実際の行動を支えたものは高い学習動機であった。編入学体験の評価については、編入学によって大学教育を受けることを主体的に選択した学生は、入学後も高い動機づけによって学習を重ね、有意義な学生生活を送っていた。学生の約9割は実りあるものとして評価しており、編入学を「悪かった」と後悔している者はいなかった。

また藏屋ら<sup>6)</sup>は、学生の学習体験については臨床経験の有無別により、編入学の志望動機や学び、達成感の相違がみられたと報告している。すなわち臨床経験がある者は自分が明確な動機づけをもっており、講義・実習からの学び、達成感も得ていた。

さらに高橋<sup>7)</sup>らは多様な背景を持つ編入学生の入学から卒業までの学習体験の中で、学習を促進させる“よいきっかけ”に関して以下のカテゴリーを挙げた。編入学前については「大学で学びたい、学ぼうと考えていたこと」、編入学直後については「大学で学ぶことに対する期待」、3年次・4年次については「看護に対する深まり」「系統だった教え方」「編入学制度、カリキュラムについて知ったこと、考えさせられたこと」、卒業前については「自己の成長の自覚、満足感」等があった。

以上のように学生は編入学教育を価値あるものと評価しており、編入学制度を導入する大学の増設・定員枠増大の希望とカリキュラム検討を求めていることが明らかになった。

しかし、編入学生の在学時の具体的な学習ニードの内容やニードが充足されたか否かについての研究は過去には行われていないようであり、今後さらにこれらの事について調査することにより、編入学教育やカリキュラムの検討をより具体的に考えていく手がかりになるのではないかと考えられる。

## V 調査方法

### 1. パイロットスタディ

質問紙作成にあたって調査内容や質問の選択肢を検討するため、1990年6月中旬に聖路加看護大学編入学課程に在学中の4年生12名を対象に面接調査を行った。

面接の内容は「志望動機」「大学に求める教育（編入

学前・編入学後)」「単位認定」「保健婦免許取得」についてであった。面接の結果から、学生の学習ニードの内容は看護に応用できる理論や物の考え方を習得すること等であった。

## 2. 質問紙の概要

パイロットスタディの結果を反映させ、以下の六つの項目より構成される質問紙を作成した。

- 1) 学生の背景
- 2) 編入学志望動機
- 3) 学習ニードの内容（一般教育分野・外国語・専門教育分野の3項目より構成）
- 4) 学習ニードが充足されたか否か、またその理由
- 5) 在学中の学習に看護短大時代の単位認定が関係したかどうか
- 6) 学習ニードを充足させるための大学における編入学教育の在り方

であり1)～5)は多肢選択法、6)は自由記載法をとった。

## 3. 対象・調査方法

1978年から1990年までに聖路加看護大学編入学課程を卒業した123名全員（編入1回生から13回生）を対象に、質問紙を1990年10月に郵送し、11月中旬に郵送法で回収した。

## 4. 分析方法

編入学の志望動機・学習ニードの内容・学習ニード充足の有無について、編入学生の背景（臨床・教育経験の有無）との間に関連性があるかどうかクロス集計を行い、必要な項目についてはカイ2乗検定を行った。

## VI 調査結果および考察

対象者123名のうち、回答者は77名であり、回収率・有効回答率は共に68.7%であった。

### 1. 編入学生の背景

回答者の卒業年度別内訳は表1に示す通りであった。編入学時の最終学歴は、看護短大卒業が73名と最も高く、このうち3年課程卒業69名、2年課程卒業4名であった（表2）。

編入学時に取得していた免許は、看護婦のみが62名と最も多かったが、複数の免許をもつ者もあり、対象者の背景は様々であった（表3）。

編入学時に臨床経験を有していた者は、34名（表4）であり、平均経験年数は4.2年であった。その職種は看護婦のみが20名と最も高く、平均経験年数は3.9年であった。また看護婦と看護教員の経験のあった者は7

表1 対象者の卒業年度

卒業年度	人数 (%)
1977	7 ( 9.1)
1978	6 ( 7.8)
1979	10 ( 13.0)
1980	0
1981	2 ( 2.6)
1982	5 ( 6.5)
1983	5 ( 6.5)
1984	3 ( 3.9)
1985	5 ( 6.5)
1986	8 ( 10.4)
1987	5 ( 6.5)
1988	10 ( 13.0)
1989	11 ( 14.3)
計	77 (100.0)

表2 対象者の編入学時の最終学歴

最終学歴	人数 (%)
看護系短期大学	73 ( 94.8)
4年制大学	3 ( 3.9)
社会系短期大学	1 ( 1.3)
計	77 (100.0)

表3 対象者が編入学時に取得していた免許

免許の種類	人数 (%)
看護婦のみ	62 ( 80.5)
看護婦と助産婦	4 ( 5.2)
看護婦と保健婦	1 ( 1.3)
看護婦と保健婦と助産婦	2 ( 2.6)
養護教諭普通2級・社会科教諭等	8 ( 10.4)
計	77 (100.0)

表4 対象者の臨床経験の有無

臨床経験	人数 (%)
有	34 ( 44.2)
無	43 ( 55.8)
計	77 (100.0)

表5 対象者の教育経験の有無

教育経験	人数 (%)
有	11 ( 14.3)
無	66 ( 85.7)
計	77 (100.0)

表 6 対象者の調査時点での職業

職種	人数(%)
看護婦	18 (23.4)
保健婦	17 (22.1)
看護教員	17 (22.1)
無職	15 (19.5)
学生	6 (7.8)
助産婦	2 (2.6)
その他	2 (2.6)
計	77 (100.0)

表 7 対象者の編入学志望動機

(複数回答) N=77

志望動機	人数(%)
看護の勉強をより深めたい	63 (81.8)
4年制大学の卒業資格が欲しい	40 (51.9)
保健婦の免許が欲しい	21 (27.3)
教員志望	18 (23.4)
一般教養を深めたい	16 (20.8)
周囲の勧め	14 (18.2)
その他	13 (16.9)

名、助産婦は2名であった。

教育経験を有していた者は、11名（表5）であり、看護短大教員5名、看護専門学校教員4名、その他（高校衛生看護科教諭・保健教諭等）3名であった。

### 学習ニードの内容

#### 【一般教育分野・外国語】

社会科学系

英語

人文科学系

ドイツ語

自然科学系

体育

フランス語

#### 【専門分野】

看護研究

看護理論

看護教育

看護過程

看護管理

精神看護学等

看護技術

専門基礎

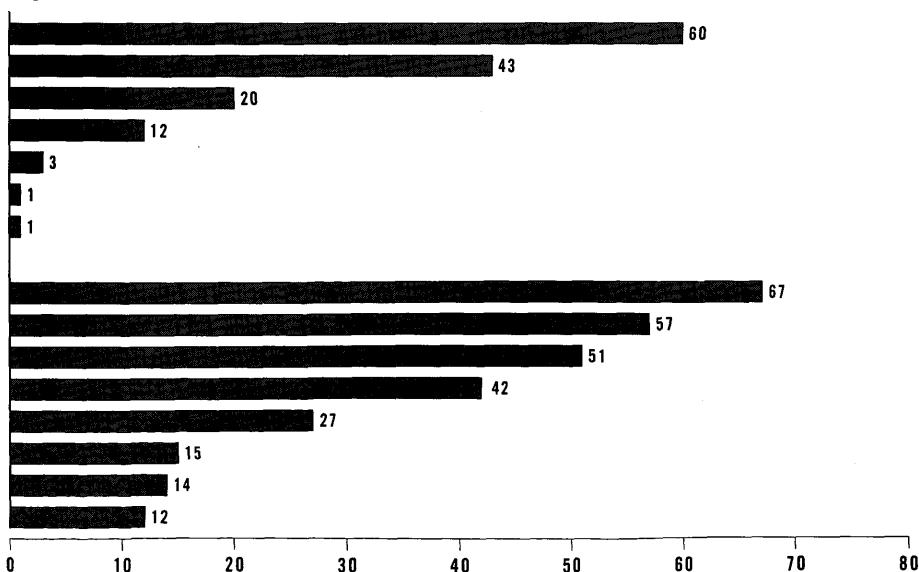


図1 対象者の選んだ学習ニードの内容

N=77 (複数回答)

教育科目は大学に比べて少なく（実際に調査時点で、ある編入学4年生を例にしたところ、看護短大で修得した一般教育科目的単位数は20単位であり、聖路加看護大学の卒業認定単位数26単位に比較して少なかった。）、必然的に4年制大学の卒業要件を満たさなければいけないと感じていたと述べていた。

「英語」に対する学習ニードが高かったことについて現在、医療・看護に関する海外文献にアメリカ発行のものが多く、日本の病院の記録も英語が主流であることから、将来英語に触れる機会が多くなると考えられ、学習の必要性を感じているのではないかと思われる。またそれに応えることができるよう聖路加看護大学の英語の講義内容も読解・会話・作文・文献講読と整えられ、時間数も多いことが反映されていると思われる。

専門分野における対象者の学習ニードは、「看護研究」が67名（87.0%）と最も高く、以下「看護理論」57名（74.0%）、「看護教育」51名（66.2%）、「看護過程」42名（54.5%）、「看護管理」27名（35.1%）、「精神看護学等（精神看護学・助産学・ライフサイエンス・看護経済学・経営学等）」15名（19.5%）、「看護技術」

#### 学習ニードの内容

##### 【一般教育分野・外国語】

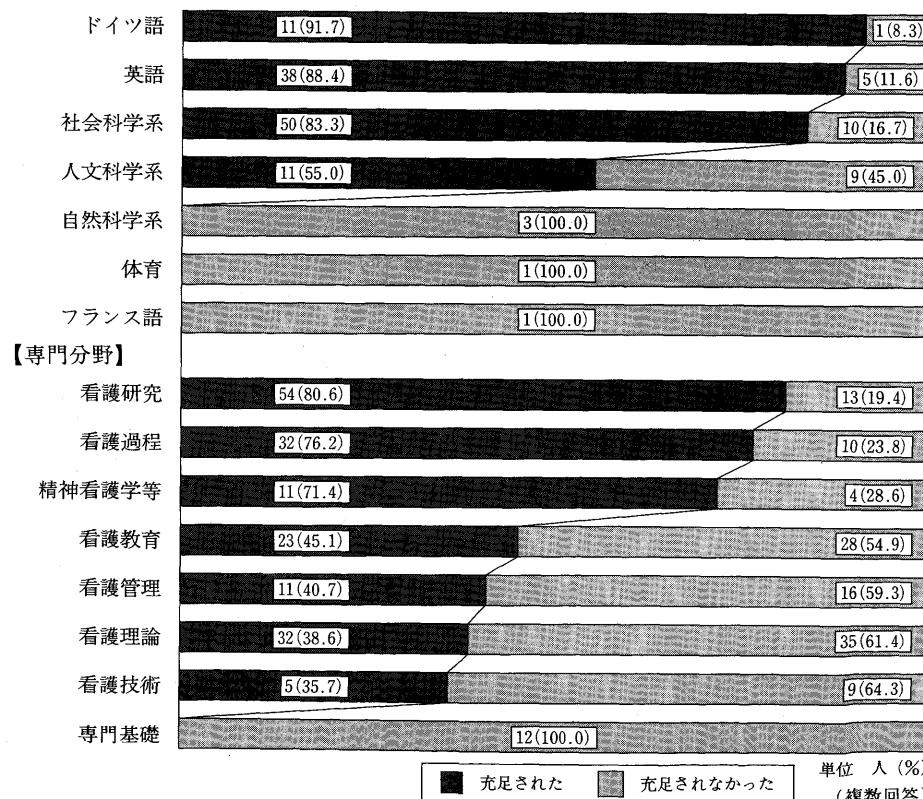


図2 対象者の学習ニードの充足の有無

14名（18.2%）、「専門基礎」12名（15.6%）と続いていた（図1）。

特に「看護研究」「看護理論」「看護教育」に対する学習ニードの割合が、が77名中過半数以上と高かったことについては、看護を学問として、またさらに専門的に深めたいという対象者の意識が強かったことが窺えた。大学の専門科目・必要単位数は、看護短大の専門科目的単位数で十分に満たされているが、質的な面を検討してみると必ずしも同等とは言い難い。たとえば大学の専門分野のカリキュラムは看護系の内容を中心に構築されているのに対し、看護短大においては医学系の影響を受けたカリキュラムとなっている<sup>9)</sup>ことからも推察される。

また岩下<sup>10)</sup>が述べているように、看護短大においてその設置のいきさつ、設置形態等による相違があり、病院付属の看護学校から昇格した看護短大のように依然として病院や大学医学部への依存関係が強いところもある。従って対象者は、看護短大時代に看護を独立した科目として学ぶ機会が少なく、「看護研究」「看護理論」「看護教育」を深く学習することができなかつたのではないかと推測された。

さらに臨床・教育経験の有無別にみると、対象者の学習ニードの内容は「社会科学系」や「英語」に最も高かった。専門分野においては対象者の各学習ニードを選んだ割合が多少異なってはいたが、主に「看護研究」「看護教育」「看護過程」「看護理論」に高く、特に教育経験がある者は「看護研究」と「看護教育」へのニードが共に100%であった。

### 3. 学習ニードの充足について

学習ニードがあると回答した者に対して充足できたと回答した者は、一般教育分野・外国語においては「ドイツ語」が12名中11名と最も高く、次いで「英語」に43名中38名、「社会科学系」の内容に60名中50名であった。これは臨床・教育経験の有無に関わりなく、同様の傾向がみられた。また専門分野においては「看護研究」は67名中54名が、また「看護過程」は42名中32名がニードが満たされたと回答しており(図2)，これは特に臨床・教育経験を有していない対象者の方が圧倒的に割合が高かった。

一方、学習ニードはありながらも充足されなかつたと回答した者は、一般教育分野においては「自然科学系」の内容に3名、専門分野においては「専門基礎」に12名であり、これらの科目についてはニードが満たされたと回答した者はなかった。

さらに専門教育分野においては、「看護教育」のニードに対する充足されない割合は約55%，「看護管理」は約59%，「看護理論」は約61%，「看護技術」は約64%と過半数以上を示していた(図2)。

また教育経験がある者で、「看護教育」を選択した対象者の約60%，「看護管理」「看護理論」を選択した対象者の100%が充足されなかつたと回答していた。

### 4. 学習ニードが充足された(されなかつた)理由

#### 1) 学習ニードが充足された理由

学習ニードが充足された理由は、表8に示すように一般教育分野・外国語では「その学習がカリキュラムの中にあり、選択できた」という回答が最も多く、その内訳は一般教育分野で充足された割合は47.5%，外国語36.7%であった。

また専門分野においても充足された理由はそれを選択した割合に幅はみられたが、殆どのニードの内容について前述と同等の回答が最も多かった。その中でも特に「看護教育」「看護管理」「看護研究」は看護短大において独立した科目としては存在せず、大学のカリキュラムに始めて登場することにも影響していると思われた。

次いで多かったのは、一般教育分野で充足された割

合は「学習環境が整えられていた」という回答が23.0%，外国語では「講義時間数が適当であった」という回答が32.7%，専門分野の殆どは「学習環境が整えられていた」という回答であった。しかし「看護理論」は「カリキュラムの中にあり選択できた」という回答であった。特に「看護過程」や「看護研究」は各看護学の講義や卒業論文の中で取り入れられ、実際に演習や実習等で自分達で展開するような学習環境が整えられていた。このように学習環境の存在とそれを学生がいかに上手く活用できるかということが大きな一つの要因になると考えられる。

「その他」の理由として一般教育分野で充足された割合は「先生がよかったです」「直接教員と話しあうことができた」が11.5%，外国語では「多くの講義がありよかったです」「短大ではドイツ語がなかったので勉強になった」等が18.4%であった。専門教育分野においては「教員に恵まれた」「講義(理論)・演習・卒論と一貫性があった」「短大では理解できなかったこともしっかり学べ現在役立っている」等、様々な回答をした者が多かった(表8)。

特に一般教育分野・外国語の講義の殆どは編入学生のみの少人数クラス(10名前後)であり、教員一学生間の相互作用が深まり、教員側も学生一人一人の学習の事情や志向性を把握しやすかったのではないかと思われる。

#### 2) 学習ニードが充足されなかつた理由

表9に示すように一般教育分野では「その学習がカリキュラムの中にはなく、選択できなかつた」という回答で充足されなかつた割合は43.5%，外国語では「自己の能力不足」「自分の意欲不足」等が42.9%，専門教育分野では「専門基礎」以外において、「講義時間数が少なかつた」という回答が最も多かった。

次いで多かった理由は、一般教育分野・外国語・専門分野ともに「自分が考えていた通りの学習内容が学べなかつた」であり、30.0%近かつた(表9)。

特に「看護管理」や「看護教育」は大学のカリキュラムの中に始めて登場する。従って講義内容としては概論的なものが主体になるため、対象者はもっと実際の現場に役立つものを求めていたと述べていた。また編入学生は学習ニードが高いにもかかわらず大学生としての基礎教育内容を獲得する。編入学生は自己のニードに対して、大学の教育内容が不十分であると認識した場合、それを自ら充足させていくような姿勢をもつことが必要であると思われる。

### 5. 学習ニードを充足させる学習と単位認定

対象者が学習ニードに合った学習を行う背景に短大

表8 対象者の学習ニードが充足された理由

学習ニードの内容	学習ニードの内容を選んだ人数(%) (複数回答)	学習ニードが充足された理由 人(%)				
		カリキュラムの中 にあり選択できた	自分が考えていた 通りの学習内容が 学べた	講義時間数が 適当であった	学習環境が 整えられて いた	その他
【一般教育分野】	61 (100.0)	29 (47.5)	7 (11.5)	4 (6.6)	14 (23.0)	7 (11.5)
【外 国 語】	49 (100.0)	18 (36.7)	3 (6.1)	16 (32.7)	3 (6.1)	9 (18.4)
【専門教育分野】 看護研究	54 (100.0)	20 (37.0)	10 (18.5)	3 (5.6)	17 (31.5)	4 (7.4)
看護教育	23 (100.0)	13 (56.5)	2 (8.7)	1 (4.3)	6 (26.1)	1 (4.3)
看護管理	11 (100.0)	5 (45.5)	1 (9.1)	—	3 (27.3)	2 (18.2)
看護技術	5 (100.0)	1 (20.0)	—	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)
看護過程	32 (100.0)	10 (31.3)	6 (18.8)	6 (18.8)	7 (21.9)	3 (9.4)
看護理論	22 (100.0)	6 (27.3)	2 (9.1)	2 (9.1)	10 (45.5)	2 (9.1)
精神看護学等	11 (100.0)	3 (27.3)	1 (9.1)	1 (7.1)	4 (36.4)	2 (18.2)

表9 対象者の学習ニードが充足されなかつた理由

学習ニードの内容	学習ニードの内容を選んだ人数(%) (複数回答)	学習ニードが充足されなかつた理由 人(%)				
		カリキュラムに なく選択できな かった	カリキュラムに あったが選択で きなかった	自分が考えていた 通りの学習内容が 学べなかつた	講義時間数 が少なかつた	その他
【一般教育分野】	23 (100.0)	10 (43.5)	1 (4.3)	6 (26.1)	4 (17.4)	2 (8.7)
【外 国 語】	7 (100.0)	1 (14.3)	—	2 (28.6)	1 (14.3)	3 (42.9)
【専門教育分野】 専門基礎	12 (100.0)	11 (91.7)	—	—	1 (8.3)	—
看護研究	13 (100.0)	—	—	4 (30.8)	7 (53.8)	2 (15.4)
看護教育	28 (100.0)	4 (14.3)	—	10 (35.7)	11 (39.3)	3 (10.7)
看護管理	16 (100.0)	—	—	6 (37.5)	9 (56.3)	1 (6.3)
看護技術	9 (100.0)	1 (11.1)	—	3 (33.3)	5 (55.6)	—
看護過程	10 (100.0)	—	—	3 (30.0)	5 (50.0)	2 (20.0)
看護理論	35 (100.0)	3 (8.6)	—	9 (25.7)	19 (54.3)	4 (11.4)
精神看護学等	4 (100.0)	3 (75.0)	—	1 (25.0)	—	—

で修得した単位の認定が関係すると回答したのは表10に示すように38名、関係しないと回答したのも38名と全く同数であった。この結果は単位認定が関係するという回答がかなり多いのではないか、という我々の予想に反していた。さらに関係すると挙げた38名の状況は「短大時代と講義内容がほぼ同じものであっても認定されなかつた」と回答した者が21名と最も多かつた。たとえば栄養学は、看護短大によっては「生化学

の中に含む」という扱いであったが、大学側ではそれを独立した科目として認定しなかつた。以下「大学での単位認定の科目数が適当ではなかつた」と回答した者が12名いた。これは保健婦や助産婦の免許を取得している対象者についても講義・実習が全て他の者と同様の扱いであったことを記述していた。「単位認定に関する教員との面接が1回のみであつた」9名、「認定試験がなかつた」「単位認定に関する教員との面接の時期

表10 対象者の単位認定の問題の有無

単位認定の問題	人数 (%)
有	38 (49.4)
無	38 (49.4)
回答なし	1 (1.2)
計	77 (100.0)

表11 対象者の単位認定の問題における要因  
(複数回答)

問題とする要因	人数 (%)
短大時代と講義内容が同じであっても認定されなかった	21 (55.3)
大学での認定単位数が適当でなかった	12 (31.6)
単位認定に関する教員との面接が1回のみであった	9 (23.7)
認定試験がなかった	8 (21.1)
単位認定に関する教員との面接の時期が講義内容を知る前であった	8 (21.1)

が講義内容を知る前であった」と回答した者が各8名、その他「専攻科は認められない」「看護は内容的には短大と異なるが、もう少し単位を認めて実習・講義を少なくし、課題学習にしてもよいと思う」等の問題を挙げた者が6名あった(表11)。

以上の結果より、対象者は入学後、短大時代の科目との重複に矛盾を感じていたことが推察され、また入学後、自分がどの科目を受講するのか入学前に知っていることが少ないとからも、より想像と現実とのギャップを感じる一因になっていると思われる。また保健婦・助産婦の免許を取得している対象者が免許をもたない者と同様の扱いであったということについては、今後さらに編入学生個々のレディネスを考慮し、柔軟な対応が望まれる。編入教育は単に学士号を取得するための教育ではなく、看護短大の卒業生に大学教育としての不足を補いながら、学生の学習ニードが充足されるようなカリキュラムの検討を行うことが本質であると思われる。従って編入学生も今後さらに自己の看護短大時代の修得単位数に関心をもち、大学で修得すべき科目と単位数をよく知る必要があると思われた。それによっておのずと編入学生としての学習ニードを再認識し、どのようにしたら主体的にそれが充足できるかということを熟考するとともに、大学側にもニードを伝達することによって、カリキュラムが改善されていくものと考える。

## 6. 大学への要望

大学への要望は計64件の記述があり、その内容は大

きく五つに分類された。その第1はカリキュラムに関するところを32名が記述しており、その具体的な内容は「カリキュラムの選択範囲を広げてほしい」「もっと時間的に余裕のあるカリキュラムにしてほしい」等であった。第2は講義に関することで12名が記述しており、その具体的な内容は「個人のレディネスを考慮して学ぶことができるよう柔軟に対応してほしい」「演習形式を多く取り入れ内容が深められるようにしてほしい」等であった。第3に大学の教育方針・理念に関することが挙げられ12名が記述していた。その具体的な内容は「編入学生個々の経験を加味した目標・方法を考えてほしい」等であった。第4は実習に関することで5名が記述しており、「選択にしてほしい」という要望であった。第5は教員に関することで3名が「4月のオリエンテーション・セミナーや学生の単位認定に関する面接を有効に使い、学生のレディネスを受容して学習方法等の相談に乗ってほしい」等と記述していた。

## VII 結論

聖路加看護大学編入学生の学習ニードに関する実態調査を行なった結果、以下のことが明らかになった。

1. 編入学時の志望動機は、保健婦免許の取得や学士号の取得よりも看護学の学習を深めたいという傾向が強かった。
2. 在学中の学習ニードは、一般教育分野においては「社会科学系」の内容に、外国語においては「英語」に、また専門教育分野においては、「看護研究」「看護過程」「看護理論」「看護教育」に高い割合を示していた。
3. 臨床・教育経験の有無と各学習ニードの選択の間には、特に有意な関連はみられなかった。
4. 学習ニードが充足されたのは、一般教育分野では「社会科学系」の内容に、外国語では「英語」に、専門教育分野では「看護研究」「看護過程」に割合が大きかった。  
一方学習ニードが充足されなかつたのは「看護理論」や「看護教育」に多かった。その理由としては、自分達の考えていた通りの内容ではなかったり、また時間数が少なかったというものが多かった。
5. 単位認定に関しては、看護短大時代に修得した単位をもっと大学で認定してほしいという要望が多かった。

## VIII おわりに

本調査により、編入学生は編入学への志望動機が明確であり、多様な学習ニードをもっていることが明ら

かになった。この調査を実施後、編入学のカリキュラムが改正されたために、今日の編入学生を対象にした場合には、単位認定に関することやニードの充足については結果が多少異なる可能性がある。しかしながら、動機づけの高いことや学習ニードの多様性は、今日の編入学生にも共通するものがあると考える。学生の学習ニードに応え、個性を生かした教育の在り方について

て、今後も検討を重ねていくことが望まれる。

### 謝辞

今回調査を行うにあたり、ご協力して下さった編入学卒業生の皆様、そして適切な助言を下さった聖路加看護大学 故 檜垣マサ名誉教授に心よりお礼申し上げます。

### 【引用文献】

- 1) 高橋シユン他：座談会 聖路加看護大学における編入制度の導入と現状、看護教育, 19(7), 399, 1978.
- 2) 聖路加看護大学案内パンフレット、編入学制度。
- 3) 高橋照子他：日本における看護系大学編入学の実態に関する研究、第19回日本看護学会（看護教育）集録、168-170, 1989.
- 4) 大賀明子：看護系大学編入学の実態と看護教育制度、看護教育, 31(1), 24-32, 1990.
- 5) 大賀明子他：編入学教育の評価に関する一考察、全国看護教育研究会誌、第21号、33-36, 1989.
- 6) 蔵屋光子他：編入学生の学習体験に関する意識調査、全国看護教育研究会誌、第21号、28-32, 1989.
- 7) 高橋みや子他：編入学生の学習体験に関わる意識調査 第2報 変化を起こさせた“きっかけとなったこと”，全国看護教育研究会誌、第22号、74-81, 1990.
- 8) 鮫島康子：看護教育における一般教養の必要性、看護教育, 15(9), 564, 1974.
- 9) 日本看護協会看護制度検討委員会：看護制度検討会員会答申「看護短期大学卒業生のための編入特別コース設定について」検討、看護, 32(13), 140-149, 1980.
- 10) 岩下清子：看護教育の大学・短大教育化をめぐる現状の問題点、日本看護協会調査研究、2号、55, 1976.

### 【参考文献】

- 新井郁男：現代学校教育の課題を考える一視点、学校教育研究, 1, 2-12, 1986.
- 河野祐子他：看護大学編入学生の学習ニードの内容とその充足の自己評価、第24回日本看護学会（看護教育）集録、116-118, 1993.
- 看護教育編集部：国立系短期大学における看護教育カリキュラム試案、看護教育, 26(5), 311-315, 1985.
- 厚生省健康政策局看護課監修：平成4年看護関係統計資料集、日本看護協会出版会、1992.
- サイン・スコット、クーパー他、壁島あや子他訳：看護継続教育、医学書院、1983.
- 鮫島康子：看護教育における一般教養の必要性、看護教育, 15(9), 564, 1974.
- 聖路加看護大学班、近藤潤子：看護教育におけるカリキュラム構成・教授・学習法・評価法の動向、医学教育, 8(3), 181-185.
- 高橋シユン他：座談会 聖路加看護大学における編入学制度の導入と現状、看護教育, 19(7), 399, 1978.
- 橋本幸江：社会情勢に伴った看護教育システムを考える、看護教育, 27(10), 594-599, 1986.
- メリ・エレン・バンクス他：看護の選択科目、INR日本語版、2(2), 21-26, 1979.
- 山崎智子：看護教育における一般教養科目の位置づけと問題点、看護, 27(8), 19-24, 1975.

聖路加看護大学紀要第20号正誤表

ページ	行	誤	正
21	7	included Japanese	included Japanese
	9	Social Studies	Social Studies
	10	achieve-ment	achievement
42	表3	看護婦の__	看護婦のみ
56	引用文献 3)	第10回	第11回
	引用文献 4)	第10回	第12回
	引用文献 5)	第10回	第13回
65	23	いろの問題	いろいろの問題
69	下から8	看語学	看護学
	下から9	博士後期過程	博士後期課程
72	下から7	人口呼吸器	人工呼吸器
80	23	発行所・発行機関 記述なし	医学書院
83	最下行	操 華子	操 華子
85	下から9	学会名 <u>Narsng Conference</u>	<u>Nursing Conference</u>